

WHAT'S Bunka

“What's Bunka” by Kakamigahara Mirai Culture Foundation.

No. 01
TAKE FREE

文化には未来がある。

時が過ぎる。
新しいものが生まれる。
古くなるものがある。
時の流れのなかで生きる私たちは、
その変化を見つめながら生きている。
文化とは。
時とともに生きる私たちがみつけた、
未来の形だ。
何気なく歩くまちの風景や、
人ひとの心の中に、それはある。
誰にもみえる、
どこにもある、
当たり前のもので、
未来につなきたい。



まちの風景

日々、何気なく通る場所には、当たり前すぎて気付かなかった風景があるかもしれません。
このコーナーでは、各務原初心者編集者が、まちを歩いて「面白いなあ」と思った風景をご紹介します。

カラフルな壁から、見せかけタイルの壁も。



上を向いて歩かないといけませんが、
下を向いて歩くのも意外な発見があるかもしれない。



JR 那加駅を降り道路をまたがる大きなアーチをくぐり抜けると、那加商店街が広がる。



まちを歩いていると印象に残るのが「花」。
お花屋さんも多いが、お店や自宅の前には、鮮やかな花々が咲いている。

まち歩きといえば「フォント」だと思えば探してみると、きりが無い。
皆さんも、ぜひお気軽に入りフォントを探しにまちへ出かけてみてほしい。

私の文化
文・河合 ほか

このコーナーでは文化財団の職員が毎号交代で「文化」について語ります。文化財団で働き始め「文化」とは何かと考える中で、そもそも「私にとっての文化って何だろう?」という疑問が生まれました。他の財団職員は、「文化」に対してどんな考えを持っているのか、いっそのことコーナーを作ってしまうは知れるのではないかと、思いつきで連載企画が誕生しました(笑)。恐縮ながら、初回はこの機関紙の作成をしている河合が担当させていただきます!ぜひ、読んでいただければ嬉しいです!

私にとって文化とは「イベント」です。地元の祭り、マーケット、コンサート、スポーツ観戦など、生活の中には様々な「イベント」が開催されています。私は、そこには共通点があると思います。日常から非日常へ、そこでしか出せない何かを求め、人々はイベントに行くように感じます。イベントは毎日あるわけではありません。時々開催されるからこそ「その日のために仕事や勉強を頑張ろう」と日常に楽しみを添えてくれます。

私にとっても「イベント」は欠かせない存在です。お客さんとして行くのも、運営側として参加するのも、どちらも予想もしなかった出会いを与えてくれます。今日はどんな事が起きるのだろう、そう考えながら会場へ向かう時間は楽しくて仕方ありません。

自分の人生を振り返りながら「文化」について考えると、私は「イベント」を通して様々な変化がありました。これから、文化財団でマーケットなど様々なイベントを企画していきます。そこには、どんな出会いがあるのか、未来なんて誰も予想がつかないからこそ、それも含め楽しみたいと思います。みなさんも、新しい発見を求め「イベント」という文化に触れてみてはいかがでしょうか。

INFO: 企画制作 / 発行: かかみがはら未来文化財団

アートディレクション: 北住尚己 (株式会社エコムクリエーション)
デザイン: 本瀬玄真 (株式会社エコムクリエーション), 山下佳苗 (granne design)
撮影 (表紙): 浦田貴秀
写真協力: 各務原市役所広報課シティブロモーション係
テキスト制作: 河合ほか (かかみがはら未来文化財団)
印刷: 株式会社イナパ印刷社
スペシャルサンクス: 各務原市民のみなさま



Twitter



Instagram



MEMO:

タイトルの「WHAT'S BUNKA」には、読者のみなさんに「文化とは何か」を考えて欲しいという願いが込められています。まちを歩くこと、人と関わること、このまちの文化にふれること。世の中が便利になってしまったがゆえに、まちとのつながりが薄れているように感じます。機関紙を通して、まちに興味を持つきっかけになれば幸いです。

かかみがはら未来文化財団とは

「文化には未来があるー文化でまちと人がつながるー」

Wabi Bunko by Kakamiyohara Mirai Culture Foundation

文化を活かしたまちづくり

TOP MESSAGE

Chairman Teruo Ido

文化芸術にふれ、人との出会いを通して感性を育み、まちに愛着を持ち成長して欲しい。

一歩まちへ踏み出し、目標を変えるところの中には文化や芸術があふれています。私たちのまち、各務原においても、そんな雰囲気を感じています。文化や芸術は愛好家が楽しむものだと、馴染みにくい印象を持っている方も多くはないでしょうか？ そんなことはありません。文化や芸術は私たちの日常に寄り添い、生活により豊かな彩りを与えてくれる存在です。

文化芸術にふれ、人との出会いを通して感性を育み、まちに愛着を持ち成長して欲しい。このような願いを込めて未来志向の取り組みを継続して実施していきます。

また、次の世代を担う子ども達や若者へ積極的にまちと関わり活動できる日常をつくることを目指します。

文化の形はひとつだけではありません。地域や人の思いの数だけ文化がある。様々な文化が混ざり合い私たちの日常を彩る光景を、まちと関わる全てのひととともに創造していきたいと思うのです。

文化財団では、各務原市がもつ文化資源を活かした取り組みを実施することで、まちの人にとって「文化」が身近な存在となり、まちの人とともに「文化」を育む機運を高めていきたいと考えています。

みなさんにとって「文化」とはなんでしょうか。少し意識して生活すると新しい発見があるかもしれません。

我がまち、各務原市の10年後、

20年後の未来の姿を見据えながら、長期的な視野に立つて「文化を活かしたまちづくり」を推進していくことは、まちの文化的な価値向上のみならず、まち全体の魅力創出につながると思います。

近年、人口減少や少子高齢化の進展など社会状況が変化し、価値観が多様化しています。そこで、まちに関わる全てのひととともに、文化により生み出される価値を様々な分野に活用していくことで、産業の活性化や地域の再生など、まちの活性化に結びつける取り組みが求められています。

このように文化に対する取り組みは、

単なる文化の振興にとどまらず、人々が活き活きと快適に暮らし続けることができるまちづくりを実現するものです。

各務原市が持つ多くの文化資源を最大限に活かした取り組みを行うことにより、まちに対する愛着や誇り、心の豊かさが育まれるとともに、このまちに住みたい、住み続けたいと感じる人が増えていく姿を目指します。

このように文化を通して、次代を担う子どもや若者が積極的にまちに関わることで、日常を創っていくことで、未来のまちの活力につなげていきたいと考えています。

各務原市が目指す「しあわせを実感できるまち」の実現に向け、官民が互いの強みを活かすことができる推進体制を構築し、地域の「文化力」を結集させることで、より柔軟で持続可能な運営体制のもと、自主的な文化活動を支援し、まちに関わる全てのひととともに各務原の文化を創造していくことを目的としています。

これらの思いから「一般財団法人かかみがはら未来文化財団」を設立しようとするものであります。

かかみがはら未来文化財団がさだめる4つの目的



1 文化に「ふれる」
身近に文化にふれることができる環境をつくる。



2 文化を「つたえる」
伝統文化を将来にわたって守りつたえる。



3 文化を「はぐくむ」
子どもや若者の文化への関心や活動を活性化させる。



4 文化を「いかす」
文化の持つ力を活かして地域を活性化させる。

対談企画

プロモーションムービーの裏側

今回、財団のWebサイトとプロモーションムービーを制作していただいたエコムクリエーション（以下：エコクリ）の北住さんと本瀬さんとかかみがはら未来文化財団の廣瀬さんへ、制作に対する思いや、撮影の裏側などをインタビューさせていただきました！

プロモーションムービーを制作される際に大切にされたことは何ですか？

き…文化芸術を自然に見せたい、軽やかな印象にしたいという思いがありました。誰もがひとつ扉を開けたら空気のように触れられるものになりたい。凝りすぎたモノではなく、日常の風景を大切にしています。日常に芸術を取り入れたという本瀬のアイデアが入っていて、見る人が観たらこれヤバイぞっていう違和感を表現したいと思っただけです。も…芸術に興味がある人が「おっ」と感じるような、2Dをつくりたいと思いました。

廣瀬さんからリクエストはされたのですか？

ひ…リクエストしてないですね。き…確認でこんな感じですよってというやり取りはして、参考のMMをいただいたりしました。

ひ…尾崎団地の給水塔のシーンとか、舞台に主人公がいるのではなく、まちの日常を表現した方がいいと思っていて。

き…そうそう、主人公感はなくしたくて。最初編集が上がった時に音楽を入れたのですが、雰囲気が出上がってしまうので、あえて音を外したんですよ。

ロケ地で印象に残っていることはありますか？

き…最初、廣瀬さんに案内してもらったんですよ。ひ…まち歩きしましたね。き…1日グルッとご紹介して頂いて、歩いて見て回りました。も…（まち歩きが）あるのとないとでは違いますね。



き…当日の朝、雪が降っていて、最初の団地の撮影は特に寒かったですよね。

ひ…朝7時集合でしたよね。き…そうそう、当日の朝フォトグラファーが二度寝して遅刻してくるっていう。間に合ったんですけどね（笑）。

ひ…僕より先に着いていましたよ（笑）。き…猫が居るところは基本好きです。も…猫が居るところは基本好きです。き…橋を渡った、お好み焼き屋さんがあるところが好きですね。

も…そこに猫がいたんですよ。ひ…デザイナーが好きそうなタイポグラフィ（文字のデザイン）がいっぱいありますよね。き…サンシャードから出る影とか、切り取り方によってはアートな模様に見えるので、フォトグラファーとか本瀬とかは、ここにいるの見たよとねと話していました。

タイポグラフィというと、「虎屋」が印象に残っているのですが、セレクトされた理由も…なんかカッコイイかなと思って。



き…文字もいいですし、あそこにシャッターとして在るのも魅力を感じました。ひ…最後のロゴが好きですね。絵コンテだと、もっとロゴが前にでると思っていたので、短い映画みたいな感じで終わるのが良かったですね。き…文字や絵だけでは伝わりきれない部分がありますよね。ひ…完成して、北住さんが伝えたかったことが分かりました。これがどうやってつながっていくのか最初はわからなかったけど、こういうのは口出しせず、絶対にデザイナーに任せたい方がいいし、完成したものを見た時にしっくりくるのですね。き…その流れに関しては、僕も同じですね。本瀬のデザインには、ほとんど手を加えていないです。

き…Webサイトとプロモーションムービーは最初から繋げようと思っていんですか？

き…提案しても動画はなしでいいですよと言われることが多いので、多分動画は制作しないと思っただけで、「むしろ動画がメイン」という返事で、一瞬焦りました（笑）。

ひ…やっぱり、動画は大事だと思って。文化、芸術は言葉じゃなくともあるもので、可視化することで何かメッセージを発信できたらいなと思っていました。

き…一番注目してほしいポイントはありますか？

も…個人的にはレモンですね。これは、某現代美術家の作品をオマージュしたのですが、レモンに電球を刺して、これは自然の力で光ってるんですよ！ というのを表現した作品です。

き…そういう背景があって生まれた作品なんです。き…分かります。シーンと、分らないかな？

き…分かります。シーンと、分らないかな？

き…分かります。シーンと、分らないかな？

き…分かります。シーンと、分らないかな？

き…分かります。シーンと、分らないかな？

き…分かります。シーンと、分らないかな？

まだまだ、ここには掲載できなかった裏話もありますが、今回はここまで。ムービーやWebサイトの中には、日常の何気ない風景や芸術作品が潜んでいます。この場所、この作品は何か？と考えながら見ると新たな発見があるかもしれません。

Webサイトでは載せきれなかった内容もアップしているのでぜひご覧ください！

